

Vivid with life!

多摩

たましん

多摩川文化圏地域誌
季刊[2004/夏号]

No. 12

特集1: 音楽のまち、かわさき

特集2: 若者と街の活力相関図

●箱根へ散歩2〈宮ノ下〉

●多摩川ウォッチング&ウォーキング
～河口から源流まで138kmを歩く～





「音楽のまち かわさき」 育ちはじめた草の根ねっとわ〜く

特集
1

東京モダンプレイボーイズ。昨年11月「西武地区ちょっとパフォーマンス会」にて。
Vocal=TAMAKOさん、Guitar=豊永保さん、Drums=増田隆夫さん、Bass=中林哲夫さん、Piano=高井亨さん

稲田堤にネジロを持つ、とあるアマチュアジャズバンドが、あるとき近くのカルチャースクールに頼んで練習場所を貸してもらった。行ってみるとその場所はガラス張り、外からよく見える部屋だった。

そこでかれらは、ビールとスナックを用意し、ガラスに貼り紙をして練習をはじめた。

「ジャズ公開練習中 冷たいものでも飲みながら聴いていってください」

やがて、ステテコ姿のご年配がぶらりと入ってきた。

「散歩の途中で見かけたもので・・・昔サックスをやっていたんです」

次に、上の階のマンションに住む人も降りて来てくれた。学生時代にドラムをやっていたという。

そのうち、自分も音楽をやっているという若者がやってきて、話がはずみ、

当金庫は世界三大格付機関のフィッチ・レーティングスにて最高位の三つ星の格付を取得しました。

信頼の絆を大切にする
お客様本位の

◎ 城南信用金庫

生田支店

神奈川県川崎市多摩区生田7-6-3

(生田駅前)

☎044-922-0141(代)

にわかセッションがはじまった。楽しげな演奏に近所の人たちも次々に足を止める。ステテコ氏も若者も、音楽の話に花を咲かせ、ビールを注ぎ合って盛り上がる。そこに「世代」という言葉はなかった。

帰りぎわに、若者が言った。

「自分の生まれ育った稲田堤は、何にもないつまらない町だとずっと思ってきたけど、こんな面白いことをするオジサンやオバサンたちがいたなんて・・・今度はいつやるんですか？」

30年の歴史を持つ東京モダンプレイ



ボーイズは、このとき初めて「地域」ということを意識したという。

路上セッションからひろがる輪

編集部がこの号で「音楽のまち かわさき」をテーマに、民間レベルの音楽活動を集めようと考えていたころ、まるでそれを見透かしたように、多摩に住むさまざまなジャンルのアマチュアミュージシャンからメールや招待状をいただいた。

かれらの活動を取材し、お話を聞くうちにわかった確かな事実がある。

それは、本誌が地域のコミュニケーション媒体を志しているように、音楽をなかたちとして、地域の人々とながら、また人々同士をつなげようとしているミュージシャンが、多摩にはたくさんいるということだ。

そのひとつが東京モダンブレイボーイズである。ベースの中林哲夫さんとボーカルたまこさんが菅仙谷に住む夫婦。大学のフオーク・ロック系サークルとして生まれ、5人それぞれ仕事を持ちながら活動が続いている。

「30年も続けてこれたのは、家族ぐるみでワイワイやってきたのと、みんな欲がなかったからです」

小学校、お花屋さん、ピアホール、お呼びがかかれどこでも無料で出演する。そんな活動が出会いを生み、出会いが出会いを生んで、今では遠く広島福祉施設へも手弁当でボランティア演奏に出かけている。

ガラス張りの公開練習をきっかけに、地元根づくことを考えはじめたかれらは、その拠点としてある場所を設定した。歩いて数分のところにある、よみうりランドである。

「多摩は何にもない街じゃない。立派なテーマパークがある。あそこをストリートライブの舞台として活用すれば、地域の交流にも、よみうりランドの活性化にもつながると思ったのです」
そんな発想をおもしろがり、同園の西企画部長も惜しみない協力を約束してくれた。

4月17日、よみうりランド園内は、中年ジャズバンドと若いミュージシャンたちの路上セッションに沸いた。場所を設定できたおかげで、それを聞きつけた知合いの若者たちが次々と

いざかや
旧「鳥しん」
お待ちしております

932-1018



加藤由美子さん



「はるかなるもみの木 聖のしらべ」にて、ハーモニーマ多摩と三田小学校6年1組合唱団の共演

菅仙谷の中林さん宅に集まってきて、セッションが実現したのだ。

その後、若者たちは中林さんたちから機材を借りて、自分たちもようりランドで独自の路上ライブ活動をはじめた。

若者だけではなく、学生時代にバンドをやっていたという地元のオジサンも中林家のスタジオでいっしょに練習をはじめた。「いつか路上をやりたい」と、夢を語

りながら。

いま、世代も音楽ジャンルも、音楽という枠さえも越えた、セッションの輪が広がろうとしている。

＊ようりランド内の路上活動に関する詳細は中林たまこさんまで。

Twitter: @katsushirabe

http://www.yourland.jp/

みんなが「参加する」コンサート

同じころ、線路を隔てた駅の反対側、菅に住むピアノの先生は、夏休みに催すコンサートの企画を練っていた。

加藤由美子さんは、ピアニストとして活躍するかたわら自宅で音楽教室を開いているが、ワンシーズンに3回、ホームコンサートも開いている。飲み物を片手にクラシックの生演奏をきき、おしゃべりをして、子どもといっしょに遊べる集いだ。

そんな活動を通じて、多摩区には音楽好きの人がたくさんいることを肌で

感じ、自分と同じ歯がゆさを共有していることを知った。

「子ども連れではコンサートへもいけない・・・」

それなら、子ども連れでも行けるコンサートを自分で企画してしまおう！と、最初は「託児付きコンサート」の発想からはじまった。それが、

「ただいい演奏家を呼ぶだけではなく、子どもたちやアマチュアミュージシャンがともに舞台上に立ち、合同で発表できる機会にしたい」

さらに、

「家族みんなで聴きに来てもらいたい。ただ聴くだけでなく、客席も参加できるプログラムにしたい・・・」

と、願いはどんどんふくらんでいった。実現への第一歩は、昨年暮れ、多摩市民館大ホールで開いた「クリスマス・ファミリーコンサート」ほのかなるも

みの木 聖のしらべ」だった。

地元合唱団と小学校の合奏団の共演。親しみのあるクラシックや歌謡曲、親子でクリスマスを歌うナンバー。そして客席に語りかける音楽童話や音あそびで、会場は一体になった。

この成功を足がかりに、加藤さんは今年「みんなのためのコンサート実行委員会」を発足。

「みんな」とは、まさに地域の「みんな」という。コンサートへ行ったことのない人も、子どもも大人も、おじいちゃんおばあちゃんも……。

地域に根ざした「参加し、体験する」新しいコンサートの形である。音大卒の仲間たちを実行委員に、ご主人やさまざまな人々のバックアップを得て、年2回の定期開催をめざす。

今回は8月21日、多摩市民館大ホール。「楽器を持って音楽会へゆこ

う」をコンセプトに、○歳児から楽しめるプログラムとなつていく。

0〜4歳児を対象とした、リトミックや絵画製作、手作り広場などのワークショップも併設し、夏休みの思い出づくりを演出するアイデアがいろいろ詰まった音楽会だ。もちろん、託児サービス付き。(P44参照)
「今後は大きなコンサートだけでなく、もっと日常的な交流の場も考えてい

MOBO
南武鉄・小田原線登戸駅徒歩1分
営業時間 11:00~21:00
川崎市幸区登戸4610 多摩西店内
TEL 911-9199

焼き肉でパーティー!!
松坂 松坂
11時開店営業 TEL 923-6920
和歌山 松坂
和歌山駅前 TEL 923-4104
カピタ ロース 480円
平安橋 登戸駅前 TEL 911-2014

少し大人の気分のカラオケスナック
のんの
向ヶ丘遊園 大鐘切店2F
TEL 922-0004

ヨシザワグループ

コンパ・宴会150名様迄OK
利京よしざわ
TEL 911-8741
味采
TEL 922-9488
向ヶ丘遊園駅前 向ヶ丘駅南口駅前
パチンコ・パチスロ 2・3F

オーガニック カフェ&レストラン
アリエルダイナー
営業時間 11:00 ~ 22:30
定休日 大塚日
登戸駅より徒歩1分
TEL 044-911-1873
定額満席取付

おやつ登戸にも
こんなお店があつた?
お茶会でも気軽に
お茶と歌が楽しめるお店
キングジョージ
川崎駅前南側 地下3F
TEL 044-933-6932
カラオケ無料
TEL 931-2365
川崎川崎金庫
ヨシザワグループ
営業時間
10:30~22:00



「音楽のまち・かわさき」を ミューザ川崎オーブン 市民の皆さんと共に世界に発信

市制80周年記念事業の一環として、この7月に最新の音響設備を備えたミューザ川崎がオーブンします。日本が世界に誇るオーケストラである東京交響楽団のフランチヤイズとなり、「音楽のまち・かわさき」のイメージ推進に拍車をかけるシンボルともなります。

ます」と、加藤さん。

「たとえば個々に音楽を習っている子どもたちが、時々集まってアンサンブルしたり、刺激し合える環境を作りたい。練習後のおやつやおしゃべりを楽しみにするだけでもいいんです」

核家族化や互いに無関心な社会が子どもたちを取り巻いている。3歳児の母親として、子どもに忍び寄る孤独を恐れずにいられない。そのうち町全

体がアンサンブルを奏でる日がくれば……と加藤さんは願う。

♪集まれヤングパワー

よみうりランドでの路上ライブ活動に若者たちが連なり、多摩にも若い音楽の芽が伸びようとしている。しかし「つまらない町」という若者の一言は、やはりショックだった。若いミュージシャンたちは、多摩を自分たちが輝ける場所とは感じていないのだろうか。

プロパンガス・
日石灯油の店
住宅設備機器の店

(有)平野益雄商店

多摩区西生田2-6-5

☎966-5364

「とにかく音を出す場所がないんです」
東京モダンブレイボイズのメンバーたちが言っていた。

「公共の場を借りよう」とすると、ドラムがあつてはダメとか、クラシック専用だという話になる。だからコンサート会場や練習場所を確保するのに大きな費用がかかるんです。わたしたちは社会人だからまだしも、若い人たちはもっと困っているはず」

かれらが地元での活動に路上を選んだのも、ひとつにはそんな事情があつた。実際小林さんたちはコンサート活

川崎は音楽活動も活発ですし、音楽資源もたくさんあります。それらが有機的に結びついていないうらみがあります。それらを統合して「こうと」「音楽のまち・かわさき」推進協議会が4月に発足しました。その統合の象徴がミュージザ川崎といえるでしょう。

音楽を楽しんで提供する人、お金を払って楽しむ人、そういう層を厚くしていつて、川崎に行けば、今まで経験したことのない素晴らしい音楽が聞けるといふ新しいタイプの音楽体験を、ミュージザ川崎を中心に発信できるようになればいいなと思います。川崎にすれば、交響楽団からストリート・ミュージシャンまで、市内の至るところでいろいろなジャンルの音楽が渦巻いている、そういう街にしたいのです。

街づくり全体を進める「音楽のまち・かわさき」推進協議会は、川崎市にゆかりのある音楽資源を情報として集約して、そこからいろいろなものを生み出していく核になります。川崎から音楽を日本中に、世界中に発信していく。情報の収集と発信の機能、活動の支援、音楽産業の振興まで一貫

して推進していく役割を担っています。

また演奏をお客様に聞いてもらう演奏会場は十分にありますが、練習から発展させたような形の発表の場が少ないので、そういう場を多くしていく必要があります。川崎音楽祭というような形で、1ヵ月くらい集中的に、それぞれの分野ごとに、またはグループごとに発表するような仕組みも考えられると思います。それが「音楽活動をするなら川崎に行こう」という流れをつくることに繋がります。

音楽は私たちの日常生活に満ち溢れています。日常生活の中で音楽を意識的に楽しむようになって欲しいですね。たとえばカラオケです。カラオケは発表ですから、すごいことだと思えます。ただ、カラオケのみにとどまらず、ホールで音楽を聴くとか、野外で楽しむというように幅を広げられたら、さらにいいのではないのでしょうか。「そうだ、自分達が音楽の街づくりをするんだ」と市民の方々が活動すると、公害の街のイメージは完全に払拭され、「音楽のまち・かわさき」と必ずやイメージされると私は確信しています。

動を、主に小金井や調布で行っているという。こうして多摩の音楽は、東京へ流出しているのだ。

ミュージシャンが線となり綱目となつてつながろうとしているとき、行政が点になつていてほしくない。かれらとつながって、その声を吸い上げてほしい。若者のいない「音楽のまち」なんてありえないのだから。

川崎市の構想が、音楽を通して街にあたらしい息吹を与える目的なら、とにかく若い音楽を呼び戻し、多摩にあふれさせたいものだ。しかしそのために一体、何をすればよいのだろうか。「企画自体を若い人たちに任せてはいかがですか？」

シンガーソングライター船越由佳さんのマネジメント事務所「オンパカンパニー」(発声)の代表・田口俊さんは、作詞家、プロデューサーとして数々の

丘の上の ハーちゃんち コンサート



三昧（左から）岡月裕子さん、横山さん、沢田真奈さん

「お隣近所のみなさんとお向かいの
坂を眺めながらお茶を楽しみたいと、
10 年前から毎年この季節にホームコ
ンサートを開いております」

3月のある日、編集部は春を知ら
せるように、かわいい手作りのプログ
ラムとチケットがとどいた。

《と・さんまい 丘の上のハーちゃん
ちコンサート Vol.10》

ほほえましいタイトルにむかひ、4
月の晴れわたる日曜日、生田の丘を
登ってゆくと、橋本治恵さん宅の2階
ですらにお客までおふれしていた。
「事・三昧」は今年結成 20 年を達
するプロの邦楽アンサンブル。橋本
さんはそのお一人であるコンサートは、
ゲスト・横山裕奈さんの朗読とティー
タイムをはさんで、橋本さんによる事
の独奏と、樋口一葉の小説をモチーフ
とした三重奏。最後は事・三昧の
真珠にあわせて、みんなで「愛そう
ぞう」の大合唱。

今年はいよいよ開花が早まり、空
から見える桜はすでに花を落としてい
たが、なごやかで楽しいふれあいの
集りになっていた。桜のながめと音楽
のあるひとときをみんなで分かち合
い、その気持ちこそが音楽のこころ
だと思った。

それによってもこのコンサートを聴いて
から、邦楽やお事に対するイメージが
すっかり変わってしまった。ポップスや
ロックどころか、のど歌にも、たいへん心
をよ、親しみやすい調べなのだ。

洋楽の作曲家がわたしたちのため
に書いてくださった曲なので、みなさん
先入観をお持ちですが、事とはど
んな曲にも対応できる自由な楽器なの
です。

事・三昧は正統派で実力派。し
かし邦楽に関心のない人までとどけに
けるオリジナリティが、日本中から文
集を集めている。彼女たちはいま、
一般の人にも演奏を体験できるユニ
ークなコンサートを企画している。折に
まけてお知らせしよう。

「いつでも力になります」と田口俊さん



賞に輝くヒッ
トメーカーで
ある。

もともと

ロック・アーティストであり、ライブ
ハウスも運営している田口さんの貴重
なアドバイスだ。

「大まかなコンテンツだけを与えて、
企画から運営まで、若者たちに自由
にやらせるのです。まず実行委員を募
れば、かれらが自発的に学生ミュージ
シャンを集めてくるはずですよ」

若者はみな音楽が好きで、イベン
トが大好き。表に出てこないだけで、大

学のサークルのみならず高校生のス
クールバンドも、実は数多く活動して
いるはずだと田口さんはいう。そして
さらに多くの生徒たちが、かれらを応
援しているはずだ、と。

「今のコたちはみんなケータイでつな
がっているから、学生バンドのネット
ワークはかれらが握っているのです」

わたしたちからは見えないところで、
若い音楽が息づいている。そして当た
り前のように網目となつてつながって
いる……もしそうならば、それは一つ
の見えざる「音楽のまち」だ。

「バンドを応援している学生たちのな

かには、楽器はできないけれど、何か
イベントに関わりたいう、スタッ
フ志向のコも多いはず。大人はただ、
オブザーバーとして見守ってあげれば
いい」

かれらの年頃は誰も、どんな形でも
自己表現をしたいと願う、活躍の場を
探し求めている。そんな学生のバイタ
リティや柔らかな発想力は、これまで
町のどこかに埋もれたままだった。

ヤングの、ヤングによる、ヤングの
ための音楽イベント……それが多摩に
活力を与え、あたらしい風になれば、
こんなすばらしいことはないだろう。